

↑ 警視庁 HP より抜粋

今私たちができること

～ 3.11 東日本大震災から5年が経過します～

甚大な被害をもたらした震災からまもなく5年が経過しようとしています。日常を取り戻すことができている方もいる反面、避難生活を強いられている方、大切な人を亡くされ今なお苦しんでいらっしゃる方も大勢います。時が経過しても、私たちはこの未曾有の大災害を決して忘れてはいけません。

東日本大震災以降、防災・減災の基本である「自助」「共助」の重要性が再認識されています。町でも「公助」の対策として、各防災機関と連携した総合防災訓練など、様々な取り組みを行っております。町民の皆様も「自分の身は自分で守る」ことを基本に、「自助」「共助」の対策を実施しましょう。

自助

● 日常備蓄をしましょう！

「日常備蓄」は、特別な準備を必要とするものではありません。日頃から自宅で利用しているものを、少し多めに備えることで、発災時にも自宅で当面生活することが可能になります。

- 水
- 缶詰
- ラップ
- ビニール袋
- レトルト食品
- 野菜ジュース
- ティッシュペーパー
- トイレットペーパー など

● ハザードマップを確認しましょう！

ハザードマップは、災害被害の軽減や防災対策のため、被害想定区域や避難場所、避難経路などの情報を表示した地図のことです。自分が住んでいる場所や、普段利用する場所、その途中の道路など身近なところの危険箇所を確認し、避難場所を家族で決めておきましょう。

イラスト提供：東京消防庁

● 家具転倒防止対策をしましょう！

地震により、転倒した家具が扉や窓をふさぎ逃げられなくなることがあります。家具の配置に気をつけたり、家具転倒防止器具を使うなどして、対策をとりましょう。



こうならないために

● 非常時の連絡手段を確認しておきましょう！

災害直後に、ライフラインの寸断や携帯電話使用の集中により、家族間の連絡ができない場合にそなえ、各種災害伝言サービスなどを利用できるよう家族で確認しておきましょう。



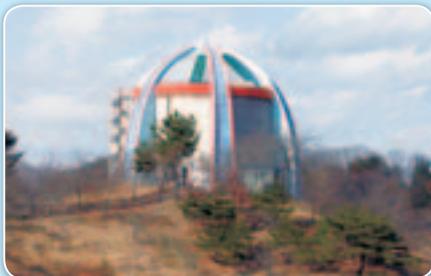
災害用伝言ダイヤル「171」
災害用伝言板
などいざという時のために確認しておきましょう

共助

● 自治会に加入しましょう

昔から「遠くの親戚より近くの他人」というように、地域との交流が深まれば、災害時にもお互いの安否確認や助け合いにつながります。未加入の方は、ぜひ自治会に加入し、自治会主催の防災訓練などに参加しましょう。

～ 文化の森給水所 ～



大規模災害などで大規模な断水になってしまった場合、この給水塔が臨時的な給水場所になります。

また、給水塔の螺旋階段を森をイメージした色に塗りなおしました。

非常時の給水場所を確認がてらご覧になってはいかがでしょうか。

◀ 文化の森給水所

給水塔螺旋階段 ▶

